

「 また伊吹山に登れる日を 」

滋賀県 東近江市立能登川中学校 1年 谷澤 あかり

「日本百名山・伊吹山、シカ食害で？土砂崩れ」私はそのニュース記事を見て唾然とした。八月十二日、伊吹山は集中豪雨により土砂崩れが発生した。原因はニホンジカによる食害で、植物や木がなくなり、山の保水力が低下したためだという。温暖化によって伊吹山の積雪量が減りシカの行動範囲が広がったため、食害も深刻化していったそう。伊吹山では近年、山に生息するシカが貴重な高山植物を食べつくす「裸地化」が問題になっており、裸地化が進むと地面がむき出しになり、落石が生じやすく、また、地面の保水力が低下するため、土砂流出が起きやすくなるという。伊吹山は元々石灰質の多い地質のため、裸地化で保水力が一気に下がったらしい。幸い、けが人はいなかったようだが、登山道は封鎖されている。登山道の復旧のめどは立っておらず、この夏や秋に復旧するのは難しいとのことだ。

私は幼いころから登山が好きで、伊吹山にも何度か登ったことがある。去年の秋にも登ったのだが、元から土砂がむき出しになっているところは、登りにくかったことを覚えている。特に六、七合目は既に土砂崩れ状態となっており、まるでがけ登りをしている気分だった。頂上に近づくにつれ、だんだん草木がなくなっていくのを実感した。また、下山している途中、近くにニホンジカの群れを見たこともあった。子連れのシカもあり、皆熱心に草を食べていた。当時はただのシカとしか思っていなかったが、愛くるしい姿とは裏腹にシカによって食害が起こり、結果的に土砂災害につながるということを知り、愕然とした。

幼い頃の私は、祖父母と共に山に登ってはいたものの、山の環境を知ろうという気は全くなかった。しかし博物館の展示や小学校での森林体験学習で、森林を育て土砂災害を防ぐ模型を見たり、山に木があることで土砂崩れが起きにくくなるという実験を見るうちにだんだんと森林を取り巻く環境にも興味を持つようになってきた。「やまのこ」で行った実験とは実験用の模型に片方には土だけ、もう片方には木や植物と土を入れそこに水を流しこむと、土だけの模型は土砂はそのまま流れ、にごった水が多く模型の底にたまった。一方、木や植物を入れた模型は土砂があまり流れず、たまる水の量も少なかった。模型によって木や植物があると土砂災害になりにくいことを知った。今伊吹山は土だけの模型のような状態になっているのだ。模型を通して知っていたことも実際に身近で起きるとより実感を伴うのだと分かった。また、私は自分の力で環境を守ることができると考え、森の保全活動に参加したりするようになった。

私が今回の土砂崩れで気付いたことは土砂災害と森林の環境は関係があるということだ。森林が荒れると土砂災害も起きやすくなり、逆に森林が手入れされて保水力が上がると、災害は起きにくくなる。つまり、森林を守り続けることによって土砂災害も起きにくくなるのだ。今まで「保全活動をすることのメリット」しか知らなかった私は「保全活動をしないとどうなるか」をあまり実感していなかった。近くでは災害なんて起きないだろうと思っていた私の甘い考えを根本から覆すニュースであった。

このように、よく行く山であっても手入れが行き届いていなかったら簡単に災害は起きてしまう。災害は他人事ではないということを実感した。

では、災害が起こらないために、森林を守るために、私たちにできることはあるのだろうか。そう思った私は、自分にできることを探すことにした。

まず、協力金を渡して応援するということだ。協力金とはその山の保全活動のために使われる登山客が有志で出すお金のことである。山を応援するためなので強制力のあるものではないが、応援の一つとして良いだろう。

次に植樹体験に参加することだ。木を植えることは土砂災害を防ぐことに繋がり、地球温暖化を軽減し、シカの個体数を減らし、山を守ることに繋がる。私は木を植え、育て、ずっと管理していくことが重要だと思う。木を守るために私たちにできることはあるのか。例えば、物を買うときに国内の木が使われている物を選ぶということだ。簡単な事だと思われがちだが、これは

令和5年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

とても重要な事である。森林組合の人々は木を育てやすくなり、私たちは高品質な製品を買うことができる。どちらにとっても良いことだ。

このように、私は土砂災害を防ぐためにはまず森林を守り、自分にできることを考え、行動していくことが重要だと思う。課題はすぐに解決しないと思うが、また登山道が開通して伊吹山に登れる日を待っている。